

第5回 洞爺湖町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）策定委員会  
議事録（要旨）

日時：令和6年11月19日（火）13:30~15:15

場所：洞爺湖町役場 3階 防災研修ホール

出席者：

番号	区分	出欠	団体名	氏名
1	学識経験者		酪農学園大学	吉田 磨
2	産業団体	欠	とうや湖農業協同組合	佐藤 憲一
3	〃		いぶり噴火湾漁業協同組合	福島 浩二
4	〃	欠	洞爺湖町商工会	山戸 準也
5	〃	欠	一般社団法人洞爺湖温泉観光協会	高橋 洋一
6	〃	欠	特定非営利活動法人洞爺まちづくり観光協会	大石 芳秀
7	〃	欠	洞爺湖温泉旅館組合	来栖 正光
8	教育関係		洞爺湖町校長会	鈴木 恭朗
9	金融機関		伊達信用金庫	埴 郁馬
10	交通関係	欠	道南バス株式会社	寺本 信也
11	エネルギー 供給事業者		北海道電力ネットワーク株式会社室蘭支店	中田 泰史
12	その他町長 が認める者		洞爺湖町環境審議会	室田 欣弘
13	〃		ウイメンズネットワーク洞爺湖	青木 佐智子
14	〃		洞爺湖町自治会連合会	吉田 聡
15	〃		洞爺湖町自治会連合会	依田 信之
16	〃		洞爺湖町自治会連合会	堀家 潔
17	行政		洞爺湖町	八反田 稔
18	〃		洞爺湖町	若木 涉
19	一般公募	欠		三上 みゆき
20	〃			荒町 美紀
21	〃			宮本 好
—	オブザーバー		環境省北海道地方環境事務所 地域脱炭素創生室	服部 夏
—	〃		北海道胆振総合振興局 保健環境部くらし・子育て担当部長	木内 武雄

## 1. 開会

## 2. 委員長あいさつ

吉田委員長：現在、気候変動枠組条約第 29 回締約国会議（COP29）がアゼルバイジャンで開かれている。去年はドバイで開かれ、今年も産油国での開催となった。議長国のアゼルバイジャンの大統領は、化石燃料活用への批判に反対していたが、外から見ると、産油国で行っている気候変動枠組条約締約国会議ということで、世界もかなり注目している。途上国では、温暖化がどんどん進行して色々なところで災害が増えていたり、海面上昇の被害のある国が増えたりしており、「先進国なんとかしろよ」という声がいつもある。日本も COP29 に参加しており、色々な議論を続けているところだ。昨今では、なかなかテレビに取り上げられないかもしれないが、新聞では小さいが色々な結果が報告されているので、ぜひ皆さんもご注目いただき、世界の動きがどうなっているのか、それに対して北海道、洞爺湖町でどうしていきべきかを考えていただければと思う。今日の会議も、どうぞよろしく願います。

## 3. 議事事項

### (1) 洞爺湖町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）案について

○事務局（バイオマスリサーチ㈱）が資料（洞爺湖町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）案）をもとに説明を行い、承認された。

#### 【質疑・意見】

##### ●計画の発行部数と活用方法について

鈴木委員：事前に送っていただき目を通してきたが、非常によくできている。学校で使う場合、学年ごとに振り分けて、年何回ずつという形で計画的に学習させていかないと理解させられなく、1 時間で終わる形にはならないかと思う。この計画の発行部数は、全世帯分の発行を考えているのか。また、学校では読み込みなど色々な教育活動に使えると思うが、具体的に学校以外の一般家庭では、どのように配布し、活用して進めていくのか。実際に作っただけではなく、CO<sub>2</sub> の削減に繋がっていかねばならないので、配布して終わりにはならないと思う。具体的な活用を簡単にお示しいただきたい。

事務局（バイオマスリサーチ㈱）：印刷は、製本で 150 部（本編 50 部、概要版 100 部）を考えている。各戸配布ではなく、ホームページで各章ごとに分かりやすく公表しようと思っている。

事務局（洞爺湖町経済部産業振興課）：実際の活用は、次年度以降も継続して環境学習を実施していく予定のため、そういった場面でもこの計画書を使いながら、住民に計画を浸透させていきたいと考えている。

吉田委員長：もっと印刷してもいいのではないかと個人的には思う。例えば小学生、中学生にお配りすると、ご家庭でも読んでもらえると思う。予算の制限等あると思うので、役場と相談しながらぜひご検討いただければ。

#### ●洞爺湖町の地域性を活かした推進体制について

福島委員：本当に読みやすく、浸透しやすい計画になったと思っている。ただ、今後は、たくさんの分野よりも洞爺湖町として得意とする分野を徹底してやっていかなければならない。今後のやり方は、数ばかりでのスタートはうまくいかないと思うので、地域性を活かしポイント絞ってやった方がいいと思う。第1回目、2回目の策定委員会の時にも言ったが、今後は色々な作業があり、スタートに伴って金額もかかる。予算も関わる問題なので、洞爺湖町としてみんなで相談しながらポイント絞ってやった方がいいと思う。

吉田委員長：この計画は、幅広くという部分もあるが、特性を活かして作られている。まずはロードマップの中で優先順位を決めると良いかもしれない。一方で、優先順位が低い＝やらないということにもならないので、色々な産業の方や我々自身、町の方など、みんなが入るような仕組みができると良いと思う。また、策定委員会としてどう推進していくかを見つつ、将来は推進委員会にもバージョンアップする予定でもいるので、その辺でも考えていきたいと思う。

事務局（洞爺湖町経済部産業振興課）：福島委員からご指摘のあった洞爺湖町の特徴では、資料の102ページ「第6章 未来の洞爺湖町のために」、「3 洞爺湖町の特徴である、多様な産業間の連携」に記載してある通り、洞爺湖町の特徴は、観光もあり、農業もあり、漁業もあるというところ。様々な産業間の連携を通して脱炭素の問題に立ち向かうと同時に、産業間の連携によって地域の魅力をさらにアップさせていこうという計画の作りになっている。事業者の皆様をはじめ町民、我々行政もしっかりこの計画に沿って推進していきたいと考えている。

#### ●計画の役場職員への周知や落とし込み方法について

木内オブザーバー：先ほど住民の方々にどのようにこの計画を周知していくのかというご質問があったが、それに関連して、この計画の役場職員の方々への周知や落とし込みは何か計画されているのか。私も同じように役所の人間なので、ゼロカーボンを進めていく上で縦割りや、住民の方も同じだと思うが、ゼロカーボンは何をやっていいのかわからないといった壁に何度もぶつかってきている。例えば、庁舎の電気に再エネを導入しようという話を持ちかけても、電気の分野である総務の立場からすると「なんでこんな高い電気を買わなきゃいけないんだ」となる。せっかく素晴らしい計画を作ったので、我々行政がやる施策の1丁目1番地のバイブルだというところの落とし込みをぜひ役場の中でしていただければと思う。

事務局（洞爺湖町経済部産業振興課）：我々の役場内でも同じような状況が生じている。ただ、有珠山を抱える町として、毎年防災に関する職員向けの学習会等々を開催している。防災だけではなく、今後この脱炭素の分野についての職員への周知は、我々担当としての使命であると考えている。また、役場庁舎や他の公共施設の電力の部分についても、我々から積極的に情報提供はもとより、当町の副町長にリーダーシップを発揮していただき、各課の調整を今現在も図っているところである。引き続き副町長には、リーダーシップを発揮していただき、さらなる推進を図ってまいりたいと考えている。

八反田委員：この計画は、先ほどから委員の方々の言う通り本当に分かりやすいと思う。部数を増やしてはどうかという話があったが、私どもとしては、各戸配布は厳しいと思っている。例えば、毎月皆さんに読んでいただいている広報に、この概要版やそれに近いようなことを載せ、定期的に住民への啓発という考え方でお示ししたい。また、数ではなく「こういう取組をすれば電気代が100円安くなるよ」など、住民を巻き込んで進めさせていきたいと思っている。その他に大事なところとしては、経済団体や住民の方々だけではなく、まずは役場がリーダーシップをとって何かをやらなければいけないと思っている。その中で、来年から公共施設の大型工事として太陽光パネルをうまく使い、防災とゼロカーボンへの取組を ZEB 化という形で進めていこうと指示をさせていただいている。やはり役場がやらなければ、みんなやってくれないのかなという思いもあるので、いろんな意味で住民の方々へのお願いと、ゼロカーボンの取組や啓発をしっかり取り組んでいきたいと思っている。

#### ●洞爺湖町の自然環境の特徴と修正箇所について

吉田委員長：図表がたくさんあり色々な出典が書かれているが、先ほど章ごとで PDF にして誰でもアクセスできるようにということだったので、出典元の URL をリンクしていただきたい。冊子に入れられるのであれば QR コードを載せたり、PDF 版ではクリックすると外部サイトへ飛べるようにしたりできると思うので、ぜひお願いしたい。

細かいが、14 ページの COP は、Conference of の後ろに the が入ると思うので、修正いただきたい。

102 ページで洞爺湖町全体をここでは産業という形で見ているが、それにも関連して、91 ページ、92 ページを細かく読むと、「自然環境の維持と脱炭素」という項目の中で、かなり森林に特化したような書き方、体裁になっている。ぜひ、海もあり湖もあるというのが洞爺湖町の自然環境の特徴なので、例えばブルーカーボンの部分を少し分けたり、何かを増やしたりして反映させていただければと思う。それに伴い、99 ページの表 6-3 でも「(1) 計画的な森林整備の実施」、「(2) 林業の担い手確保」が森林に特化したようにも見える。(3) の中には確かに「藻場の再生・造成」なども含まれ

ているが、少し切り取って森林だけではないということを見える形にさせていただければと思う。114 ページの KPI 案のところも同じく、対策が (1) から (3) までであるが、ここも同じように反映していただければと思う。

113 ページから始まる KPI の表は、基本方針①の中に (1)、(2)、(3) があり、さらに①という風に、基本方針と KPI の①などが重複しているので、記号は分けた方がいいと思う。何かの説明で①といっても、どちらの①なのかが分からなくなるので、1、(1)、①、などのように分けた方がよろしいかと思う。

117 ページで PDCA の A を「Action」という表現しているが、一方で、109 ページの扉で提示している環境省の図中では、A は Action ではなく Act になっているので、どちらかに合わせて整合性をとっていただきたい。

事務局（バイオマスリサーチ㈱）：91 ページ、92 ページは、おっしゃると通り森林を特出させすぎている部分があるかと思うので、今ご意見いただいたように、森林だけではなく洞爺湖町の湖や海などを連想できる形にできればと思う。

#### 4. その他

- 吉田委員長が、今回の策定委員会でいただいた意見を基に、洞爺湖町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）案の修正案をパブリックコメント案とすることの説明を行い、承認された。
- 事務局（洞爺湖町経済部産業振興課）が、第6回洞爺湖町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）策定委員会は、パブリックコメント期間中にご意見があれば令和7年1月上旬に開催予定であることを説明した。
- 事務局（洞爺湖町経済部産業振興課）が、来年度以降の策定委員会について、具体的な施策の実施方法や実施体制、優先順位などを議論するため、年に2回から3回の開催予定であることを説明した。

#### 【これまでの策定委員会を踏まえて】

木内オブザーバー：全ての委員会に参加をすることはできなかったが、大変素晴らしい計画が出来上がっていると思う。この後はパブリックコメントを行い、その後議会に報告するという形で出来上がると思うので、ぜひ完成を楽しみにしている。

個人的な話だが、私は5年前に自宅の家を建てた。建てる時に太陽光パネルをつけようと思ったが、その時のハウスメーカーの営業から太陽光パネルを反対された。5年前は「絶対に元が取れないからやめた方がいい」と言われていたが、半年ぐらい前に、そのハウスメーカーから「うちの会社もいよいよ太陽光をやることになりました。ぜひどうですか。」という営業の電話がかかってきた。たった5年でこんなに状況が変わってきているということ、身をもって感じている。この太陽光パネルに限らず、世の中は色々なことがすごい勢いで変わってくると思うので、そういった世の中の

流れなどを適切に捕まえて、KPI の見直しをやっていていただければと思う。

宮本委員：私は、普段この会議以外にも色々な会議に参加させてもらっており、半数ぐらいの人と何らかの会議でお会いしている。その様々な会議に参加している人は、結局同じ方ばかりという現状がある。結局、会議ごとでやっていることはまちづくりだが、横が繋がっていない独立した会議になっている。参加している方たちは色々な会議を掛け持ちしており、「これとこれは繋がっているのに、この会議ではこれは繋がっていない」というのに遭遇するたび、歯がゆい思いをしている。このゼロカーボンもまちづくりの1つであり、今後まちづくりを進めていくにあたり、1つずつゼロカーボンの取組が町の PR になっていけばいいと思う。横の繋がりをよろしく願います。

荒町委員：最初この会議に参加した時は、「ゼロカーボンとは何なのか。地球温暖化はなんとなく知っているけど。」からのスタートだったので、正直最初の数回の会議はついていくのがやっとだった。けれど、今日この計画を見ると、今までやってきたことはこんなにすごいことだったというのを改めて思った。会議に参加したからこそ、このゼロカーボンや地球温暖化というものに興味を持ったが、会議に参加していないとなかなか興味を持つような内容ではなく、難しいと思ってしまう。先ほど副町長も言った通り、町の人たちができることはどんなことなのかということをもっと噛み砕いて、町民の方におろしていくといいと思う。この厚い冊子をホームページから見られるということも大切だが、このページ数を見ようと思うかというとなかなか難しい。町民の人たちには何をやってほしいのかというところを先ほど副町長が言っていたように、広報に載せたり、リーフレットを作ったり、町のポスターを作ったり、そういった形で町の人たちに分かるようにおろしていただけたら嬉しいと思う。

今回、会議に参加させていただいて、ゼロカーボン、そして地球温暖化というものにすごく興味を持った。私の方でも少しずつラジオで取り上げるなど広報していければいいと思うので、ぜひ皆さんもやっていただけたら嬉しいと思った。

若木委員：これまでの会議で皆様から様々なご意見いただいて、素案が出てきた。非常にわかりやすく、いい計画になったと思って見させてもらった。表現の仕方も含め、すごく簡潔にまとめられている。ただ、やはりページ数があるので、これを住民の皆さんに見てもらうのはかなり大変。今ご意見のあった通り、副町長のリーダーシップのもと、これを広報等に掲載して住民に周知を図るなど検討していきたいと考えている。

11月24日に文化センターで「脱炭素ってなんだろう」という題目でセミナーを行う。

先日の区域施策編概要説明会に参加していただいた住民の方からは、会場の規模に対して参加者の数を心配されている声があった。ぜひとも皆さんには積極的に周囲の方にもお声がけしていただいて、多くの方に参加していただければと思うので、ご協力の程よろしく願います。

八反田委員：まず、昨年の9月から今年の11月までの約1年2ヶ月、皆さんにこのような会議へのご参加、ご意見いただいたことを委員として、また副町長としてお礼を申し上げたいと思う。

先ほど私も意見させていただいたように、「せっかくいいものを作ったのだから、これからどうするのか」ということが委員の方々が心配されていることかと思う。昨年の1月に町長がゼロカーボンシティ宣言をした町なので、町としてもしっかり取組をさせていただきたいと思っている。しかし、お金のない町なので、福島委員が言われたように、国の支援がなければなかなかできないということがあるかと思っている。これから粘り強く区域施策編を実行していくので、国の補助金をもらえるよう取組み、地域の方々にも取り組んでいただけるような施策を作っていきたいと思っている。

この役場庁舎のZEB化というのも計画に出てきている。庁舎自体は平成15年に建てられており、約20年前の建物になるが、断熱性能は高い。しかし、太陽光などの再エネには取り組んでいない施設なので、新年度予算の中で役場庁舎に太陽光パネルを置けないか再度検討・指示をさせていただいている。その中で、ある企業の方々から、「電気代を支払っていただければ、ここに無償で太陽光パネルをつけます」というようなお話もいただいている。公共施設において、少しでも初期投資を少なくし、なおかつ電気料が少しでも安くなるのであれば取り組むべきだと思っている。また、もしこの地域に津波があり、役場庁舎が水没してしまった場合、下に電気室があるため、ここから撤退しなければならないというリスクを避けられるような仕組みを作れないかも含め、取り組んでいきたいと思っている。皆さんからも色々な意見をいただきながらまちづくりを進めていきたい。

堀家委員：私は、ゼロカーボンのことは全然分からなかったが、会議に出ているうちにだんだんと分かるようになってきた半面、まだはっきりとは実際の話が分かっていない。これからは町民にもどんどん波及していかなければならない。副町長から言われた通り、町民に分かりやすく広報に入れていただき、どんどん広めていければ、確かに将来に向けて素晴らしいことになると思う。

依田委員：地球温暖化と言われても漠然としてよく分からなかったが、自分たちにも具体的にできることがあるということがだんだんと分かってきた。そういうことを

自治会を通して町民の方に伝え、何か1つでもできることからやっていこうという風にしたいと思っている。

吉田（聡）委員：この実行計画がすごくわかりやすく、理解しやすい計画だということは、この委員会の皆さんの総意だと思う。そして、先ほどからお話が出ているように、できるだけ多くの方にこれを見ていただきたいと思っている。私も教育と関係することを色々やらせていただいているので、この計画なら中学生でも十分理解できる内容だと思う。できるだけ、小学生、中学生、もしくは高校生まで入れて、若い方にこれを読んでいただけるような工夫をしていければと思っている。

さらに付け加えて言えば、正直私たちの年代は、「我々が活着ているうちになんとかなる」という考えの人が多と思う。そういう人に振り向いてもらうための仕掛けづくりを上手にしていかなければいけないと思う。先ほど若木委員からもお話があったが、セミナーの開催についても何らかの仕掛けを作り、人が集まるような形にしていかなければならない。横の繋がりのお話もあったが、みんなで協力しながらやっていければと思う。

青木委員：事前配布の委員会資料を最後まで読んで私自身も大変勉強になった。地球温暖化について、我が家の畑でサツマイモが採れたり、落花生が採れたりして、こんなことは今までなかったと気づいた。海の方でも、寒いところの魚がだんだんと捕れなくなり、暖かいところの魚が捕れてくるというのを実感している。自分自身は節電に努めており、家族が電気をつけっぱなしだと、後ろから追いかけて消すぐらいのことをやっている。

計画を読んだの感想としては、18ページの「①まずは省エネに取り組む」というところで、「自分だけこんなに頑張っても、どうにもならないよな」という思いを時々するが、その辺を上手いこと書いてある。この実行計画ができたということは素晴らしいことで、それを具体的にやっていくのは各個人だと思う。事業主の人ももちろんだが、個々人が問題意識を持てるように、毎月ではなくても広報などで知らせることが大事だと思う。例えば、「温暖化が進むとこんなことが大変だよ」、その次の時には、「こんなことを1人1人が気をつけたら、少しはこれがこうなるよ」というように、難しい話を難しく話すのではダメだと常々思っている。自分たち団体でも、何かお知らせする時は、優しい言葉で小学生に伝わるように伝えた方がより良いと思っている。できるだけ具体的なお話の広報活動を続けていくということが大事だと思う。また、私達の年代では、学習会などを夜分に開催されると、夜出かけるというのがなかなか大変。広報活動を活発にやっていただけたら、一人ひとりの意識が上がるので、それがやはり最初ではないか感じている。

中田委員：私はこの委員会に今年から参加させていただき、最後どういう仕上がりになるのかよく分かっていなかったのですが、こういう形でできると初めて分かり、非常に見やすいと感じている。私どもは北海道電力ではなく、北海道電力ネットワークという送電線や配電線を管理する会社だが、私どもの会社も今、企業としてカーボンニュートラルに向けてチャレンジしているところ。

皆さんに情報提供として、2023年度末の北電の送電線に乗っている再生可能エネルギーの割合は、40%になっており、そのほとんどが風力発電と太陽光発電。風が吹いて天気の良い時は、ほぼ4割の電気を北海道で賄ってくれている。当然、北海道で使いきれない分は本州に電気を送って供給している。なるべく今も、風力発電所は日本海側や函館の方で一生懸命作っていただいております、電気の受け入れ体制をしっかりやり、これからもどんどん再生可能エネルギーの導入量を増やしていこうという取組をさせていただいている。

さらに私どもはEVにも力を入れており、先日、白老と室蘭の自動車学校と自動車メーカー5社にご協力いただき、EVの試乗会を行った。誰も来ないのではないかと思っていたが、すごい勢いでお客さんが来られ、予想を上回る試乗会となった。まだまだガソリン車の方が多いが、電気自動車に興味をお持ちになられている方がたくさんおり、これからこういった電気自動車などを普及させていかないとダメなんだと実感した。

そんな形で、電気売っている会社ではなく送電会社だが、再生可能エネルギーを一生懸命取り入れたり、EVを皆さんにお勧めしたりしているので、何かご協力できることがあれば協力したいと思う。

埴委員：私も今年から会議に参加させていただいた。やはり脱炭素という言葉は、知っており、「やらなきゃいけないんだろうな」程度の知識しかなく、この会議に参加させていただき非常に勉強になった。計画も、全く分からない人が見ても入口から入りやすい実行計画になっていると思う。ただ、やはり脱炭素に興味のある方や関心を持っている方は、多分ほっといても見ると思う。問題は、関心のない方や私のように会議に参加しなかったら言葉は知っているけどどうすればいいのか分からない方にこれを渡した時、おそらく見ないのではないかなと思う。そういった方々にどうやって見てもらうか、興味をもってもらうか、というのがこれからの課題だと思う。そのため、とにかく一方的に進めて聞いてもらうのではなく、町民の方も巻き込んで参加させていただき、みんなでやっていくという体制作りがこれから課題になってくると思う。先ほど宮本委員もおっしゃった通り、私も他のまちづくり委員会などの会議に参加させていただいている。例えば今始まっているとうやコインでイベントに参加したらポイントをあげたり、興味のある方に絡めてアンケートを取り、良い案が出たらポイントあげたり、そういう横の繋がりもできると思う。今後私も他の会議で何か発

言できることがあれば、発言していきたいと思う。

鈴木委員：学校現場では、こういった学習は総合的な学習の時間で行うことになると思う。特に洞爺湖町は地域資源が非常に豊富なので、ふるさと教育も充実している。ここにいらっしゃる依田委員のところにも、実は1年生がふるさと洞爺湖を学習したいということで、洞爺湖の周辺を散策したり、ホテルの周りにゴミが落ちてないか見たりしている。ゼロカーボンにするため、町を綺麗にしてゴミのない町にしていかなければならないなど、ふるさと教育と今回のゼロカーボンは繋がっているものがある。今年度は産業振興課の佐藤さんに声をかけていただき、特別授業をしていただいた。中学生も興味を持ち、委員会では発表という形で学習させていただいた。教育課程にしっかりと位置付け、全て結びつけながら洞爺湖町をいかに魅力ある町にしていこうかという観点で、子どもたちに考えさせるような教育の方向を続けていきたいと思う。

福島委員：自分は75歳になるが、一次産業の漁業でホタテ養殖をやってちょうど60年目になる。温暖化を肌で感じており、自分の小さい時は本当に泳げないぐらい海の中いっぱい海藻があったが、今は皆無。この頃来る低気圧は、どれも発達しており、下手したら台風以上に発達するという事になっている。養殖も今までやった経験が多少はあるが、その年に合わせた技術を持っていかないと、今は継続不可能。温暖化の影響で2℃から3℃気温が高く、ホタテの水温上限が23℃と言われている中、噴火湾は水温27℃ぐらいまで上がる時があり、ホタテを海に入れて30分もしないうちに死んでしまう。そういう水温でやっているため、かなり目配り、気配りしていかないと、自分の稚貝を育てられないというのが今の浜の現状。今はとても個人格差があり、作り方によって全然育たないという人もたくさんいる。本当にこの温暖化は、1日でも早く、少なくともこれ以上に悪くならないように抑えていかないと、次の息子や孫の代まで一次産業が伝わっていかないとと思う。

先日役場に行った時、みんなタブレットなどを見て、話している人が誰もいなかった。できれば役場の中でも、計画を落とし込むのにタブレットなどではなく、口頭で対話しながら落とし込んでいかないとなかなか浸透しないのかなと思う。先日テレビで、教育改革の先進国であるフィンランドが今の子どもたちの集中力が低下しているため、タブレットなどのデジタル教材をやめ、紙の教材やえんぴつに戻ったというニュースを見てびっくりした。教育でもデジタルに頼らない国が出てきている。町づくりやこの計画も、実行するのは人間なので役場の職員がかなり強力で落とし込んでいかなければならないと思う。自治会の底上げは町全体の盛り上がりへと繋がっていくので、ぜひ副町長中心に自治会と一緒にやってもらえればと思う。

去年あたりからワカメ養殖の試験事業、そしてついこの間から昆布の養殖を始めた。

この陸上と同じく、徐々に海の中も緑を増やしていかないとバランスが悪い。  
この計画は素晴らしいが、やはり計画の全部が必要な人、一部分が必要な人という  
と思う。企業ごとなどによって、計画の必要な部分だけを出していくというのもありだ  
と思う。

服部オブザーバー：私自身は途中の会からの参加となったが、出来上がった実行計画  
区域施策編は、脱炭素に興味持って知りたいと思った方が参考とするのに何よりも  
いい資料になったのではないのかと思っている。委員の方々からもお話があったが、  
これをベースに広報などで地域住民の方々や事業者の方々と一緒に考える機会を広  
げていき、洞爺湖町において脱炭素が当たり前、より浸透していくものになるかと  
思っている。区域施策編で方針が示されたというものもあり、PDCAのDoのところ、  
これから再エネや省エネの導入に取り組んでいく中で色々と課題が出てくるかと思  
う。その点についても、地域の中で相談や合意形成を図り、進めていっていただけれ  
ばと思う。今回の区域施策編を受けて、ぜひ洞爺湖町と共に今後も、これからやって  
いくことを一緒に考えさせていただき、ご相談いただければと思う。

室田副委員長：この会議に参加させていただいて、吉田委員長とは2007年、2008年  
頃から洞爺湖の水質調査で色々とお世話になっている中で、今回委員長を引き受け  
ていただいた。江別市などでも地球温暖化対策実行計画の委員長もやられており、  
様々なアドバイスをもらいながら、またバイオマスリサーチ(株)の協力を得ながら、こ  
ういった立派な冊子が出来上がったと思っている。この実行計画の中から、いかに洞  
爺湖町を脱炭素に向けて持っていくかという点では、これを町民の皆様に浸透させ  
ていくのが私たち委員の務めだと思っている。ぜひ皆さんの協力を得ながら、次のス  
テップに向けて頑張っていきたいと思うので、ご協力の程よろしく願います。

吉田委員長：横の繋がりのお話があったように、皆さんとは一緒に会議がいくつかあ  
る。そういった中で、他の会議で、ここで話したことを少しはっきりさせよう、影響  
を与えようというの也不错だと思う。我々自身が向き合って、この横の繋がりを  
どんどん作っていくことも必要なのかなと思う。

この計画は、ページ数が多く盛りだくさんとなっている。この計画にも出てきている  
IPCC 評価報告書というのは、3つの作業部会があり、1つの作業部会に4,000 ページ  
の英語の報告書がある。それぞれ政策決定者に対して、自然科学的な根拠や影響・適  
応・脆弱性、気候変動の緩和策を与える資料となっている。3つの作業部会の報告書  
を全部合わせて12,000 ページとなるが、それをすべて石破総理が読むのか、下道町  
長が読むのかというと、12,000 ページは厳しい。そこで、「政策決定者向け要約」と  
いうのを作っており、それぞれ4,000 ページを40 ページ、1%まとめている。100分

の1の40ページにすると、3つの作業部会で120ページなので、それは石破総理も下道町長もきっと読んでいらっしやる。そのぐらいのダイジェスト版があっても確かにいいのかなと感じた。

1番後ろに用語集があり、言葉の分からない部分はここを見れば分かるので、かなり参考になる。今はIPCCなどの英語表記も日本語読みした時のあいうえお順に全部載っている。例えば124ページででてきているZEBも聞いたことなければ、これをZEBと書いてゼブと読むことが分らないのではないかという話が昨日の委員会事前会議であった。であれば、ABC順とあいうえお順の両方を載せ、分けた方がいいのではないか。

また、PDFにあげる時も章ごとにあげるのではないかと思う。例えば24ページの第2章、44ページの第4章、96ページの第6章など、章の始まりが左ページからになっているが、章ごとに分けた時、印刷すると左右が逆になってしまう。なので、全てのページを右の奇数ページから始めるように作った方が、分割した時におかしいことにならないので、ご考慮いただきたい。一方で、見開きページがあり、ページ繰りが難しいと思うが工夫していただきたいと思う。

色々な災害が増えている中で、確かに無関心な人はたくさんいる。ここで1回お話ししたこともあると思うが、もう必然的に無関係でいられないので、無関心でもいられないという時代にもきてしまっている。噴火のこともあり、津波のこともあるが、地球温暖化というのは本当に災害に結びつくことだ。このIPCC報告書では、産業革命前から気温が1.1度上がったため、産業革命前にあった10年に1回の災害、つまり人であれば一生で10回ぐらいしか遭わないような災害が、もうすでに10年に3回にまで増えている。それが1.5度になると4回、2度に上がると6回、4度上がると9回になり、10年に1回の災害が10年に9回来るようになってしまう。今生まれた子などの次の世代は、そういう中で生きていかなければいけない。これは本当に切実な問題で、それをどう対応していくかということを見ると、46%削減やカーボンニュートラルという話になってくる。自分事として皆さんがやっていく良いきっかけになる実行計画ができた。次は実施計画で、具体的に何をしていくのか色々な施策に反映していくことになろうかと思う。副町長や部長、そして職員だけではなく色々なところでそういう考え方を調整して行って、みんなでやっていくのだと思う。そして、次の世代に持続可能なサステイナブルな世界を引き継ぐためにやっていくきっかけになったらいいと思う。

酪農学園大学では、農場に垂直パネルを設置している。農業と太陽光パネルを両立させようということで、森林を切ってパネルをつけたり、畑をやめてパネルをつけたりするのではなく、垂直のパネルを立てて、農業をしながら太陽光で発電するという取組を行っている。特に冬は、普通の斜めに設置する場合だと雪をかぶって発電しないが、垂直のパネルは両面にパネルがついているので、雪の高い反射率によって非常に

発電して本当に良いということが分かった。このように、どちらかを辞めるのではなく、産業や自然環境と再生可能エネルギーが共生するというのも町民の皆様としては大事なことかと思う。万に一つの我慢もあるかもしれないが、できるだけ強制しないで成り立つようなことを考えていければと思います、これからは町には大変期待している。

広報などで計画の最終版が出るので、ぜひご覧いただき、周りの人におすすめいただきたい。副委員長からもあったように、我々には発信する役目があるということなので、ぜひ広げて1人でも多く実行計画を見て、関心を持っていただくというところから始めていければと思う。

事務局(洞爺湖町経済部産業振興課):計画の本編については120ページほどあるが、20ページ程にまとめた概要版も数は少ないが作成予定で、データでも納品予定なので印刷して配ることは可能。

昨年、広報で脱炭素に関わる記事を記載しており、なかなかそれが皆さんに届いていないという部分も、改めて今日ご意見いただいた中で判明したので、皆さんの目に留まるような工夫もしつつ、引き続きそのような取組も進めてまいりたいと思う。

昨年9月から本日まで約2か年にわたり計5回の策定委員会を開催させていただいた。私自身、これまで地域課題に関する数多くの計画策定を担当してきたが、今回は地球規模で進行している地球温暖化問題に関する計画ということで、知識や知見も当然ながら乏しく、手探りの中で計画策定をスタートさせていただいた。そのような中、本策定委員会の皆様をはじめ、オブザーバーの方々、さらにはアンケートやヒアリングなどを通じてご協力いただいた町民、事業者の皆様、そして本業務を受託していただいたバイオマスリサーチ(株)の職員の皆様には、この場をお借りして改めて感謝申し上げます。

この後、パブリックコメントを実施し、期間中に計画素案の修正に関わるご意見がなければ、本日を持って計画策定にかかる委員会は最後となる。しかしながら、脱炭素、カーボンニュートラルの取組については、計画を策定したら終了ではなく、やっと取組のスタートラインにつくことができたという状況。2050年ゼロカーボンを実現するためには、町民、事業者、我々行政が一体となり、この計画を着実に推進することが何よりも重要だと考えている。これまで以上にここにおられる皆様にご理解とご協力を賜りたいと考えている。

## 5. 閉会



令和6年度第3回 洞爺湖町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）策定委員会の様子